

2022（令和4）年度 東北アジア研究センタープロジェクトユニット報告書

提出 2023（令和5）年3月31日

代表者 高倉浩樹

（本報告書はセンター内外への公開を原則とします）

研究題目	日本語：マイノリティの権利とメディア研究ユニット 英語：Research Unit for Minority Rights and Media	
研究期間	2022（令和4）年度 ～ 2027（令和9）年度（6年間）	
研究組織 （センター教員・ 兼務教員・教育研究 支援者、RA等〔退 職した教育研究支援 者等は雇用期間を記 して記録すること〕）	氏名	所属・分野・職名
	高倉浩樹	東北アジア研究センター 教授
	岡洋樹	東北アジア研究センター 教授
	志宝ありむとふて	東北アジア研究センター 特任助教
	川口幸大	兼務教員（文学研究科 教授）
	ボレーセバスチャン	兼務教員（災害科学国際研究所准教授）
	内藤寛子	客員研究員（アジア経済研究所）
外部評価者	氏名	所属・職名
	吉田睦	千葉大学文学部・教授
	上水流久彦	広島県立大学・地域基盤研究機構長・教授
	ブレンサイン	滋賀県立大学人間文化学部・教授
センター支援	センター長裁量経費	0円
	学術研究員	0名
	研究スペース	無
ユニット組織設置目的と本年度の研究事業の成果の概要 （600-800字の間で専門家以外にも理解できるようにまとめてください。 Webなどで公開を予定しています。）	<p>本ユニットは、大学共同利用機関法人間文化研究機構（NIHU）「グローバル地域研究事業東ユーラシア研究プロジェクト」に参画する東北大学における拠点として、国立民族学博物館・北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター、神戸大学国際文化学研究推進センターとが連携し、東ユーラシアの文化衝突とウェルビーイングに係わる学際的・国際的研究を推進するものである。</p> <p>東北大拠点は、ユニットメンバーを中心に、他大学の研究者数人が東北大拠点の構成員である。今年度は、メンバーによる研究目的の理解と、それぞれの分担に基づく研究課題の整理と相互関係を充実させることを第一の目的として活動した。このために3回の研究会を実施した。また拠点内部での研究領域について明示することができた。それは研究領域1「マイノリティの生成と権利」、2「ソーシャルメディアと社会運動」、3「災害・紛争によるマイノリティ」である。このなかでメンバーが複数まとまりながらかつ次世代研究者を取り込みながら研究を進めていく体制を整えた。</p> <p>研究組織にあっては、東北大学大学院博士後期及びポストドク・若手研究者を中心に柔軟に参加できる体制を整えて、実際に別予算をつかって海外の若手研究者を招へいし、日本で行われた国際会議で分科会（7th International Symposium of Arctic Research, 国立極地研、2023年3月）を主催した。特任助教を中心にして、HPも作成し、情報の集約化と発信をできる体制を構築した。また上記4つの拠点との連携体制を構築するため、1月に東京・アルカディア市ヶ谷・私学会館で全体集会を行い40名程の参加者を得た。</p>	
活動報告（研究集会や講演会などのプログラ	# 研究会 （1）2022/5/13 講演会 “Confrontation and Cooperation: Soviet-Japanese Relations in Northeast Asia, 1922-1941”、話者 Sherzod Muminov（センター客員准教授、英国イーストアングリア大学講師）、コメンテーター 神長英輔先生（國學院大學教授）	

<p>ムを記してください。 共同研究報告書に記載 済みは除く)</p>	<p>(2) 2022/8/9 セミナー 1. 澤井 充生 (東京都立大学助教)「官製メディアに描かれた回族——現代中国のプロパガンダにみるマイノリティの表象」 2. 阿里木 托和提 (東北大学東北アジア研究センター助教)「周縁文化の独自性と文化変容の理論研究—東アジアとイスラーム文明圏間の関係及びその学際的研究をめぐって」</p> <p>(3) 2023/3/4 国際セミナー「ロシア先住民社会の今日的葛藤」 1 Dr. Victoria Peemot (University of Helsinki) Militarization in the Ethnic Periphery of Russia: Memory Politics and A False Sense of Kinship 2 Dr. Zoia Tarasoova (Independent Researcher) Religious resurgence among Sakha (Yakuts) in the context of Muslim immigration from Central Asia</p> <p># 東ユーラシア研究プロジェクト第一回全体集会 2023 年 1 月 21 日 (土) アルカディア市ヶ谷 (私学会館)</p> <p>基礎講演 高倉先生 (東北大学東北アジア研究センター) 東ユーラシアの文化衝突とウェルビーイング</p> <p>セッション1 (拠点長パネル) 代表者・東北大拠点長 高倉 浩樹 (東北大学東北アジア研究センター) 副代表者・民博拠点長 島村 一平 (国立民族学博物館) 神戸大拠点長 岡田 浩樹 (神戸大学大学院国際文化学研究所) 北大拠点長 岩下明裕 (北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター) 昼休み セッション2 発表 1 小坂田 裕子 (中央大学法科大学院) アイヌ施策推進法を巡る議論と「先住民族の権利に関する国連宣言」 発表 2 滝澤克彦 (長崎大学多文化社会学部) 発表 3 小川さやか (立命館大学 先端総合学術研究科) 自身の系譜を打ち立てる—アジアとアフリカの間の SNS を介した交易を事例に 発表 4 郝 洪芳 (ミシガン大学日本研究センターアフィリエイト) 越境とジェンダー グローバルな家族と越境する親密性</p> <p>コメント 1 川口幸大 (東北大学大学院文学研究科) コメント 2 池直美 (北海道大学公共政策大学院) 質疑応答</p> <p>総合討論</p>		
<p>本年度のユニット運営を通じた実現した東北アジア研究センター組織への貢献についてアピール</p>	<p>本ユニットは人間文化研究機構からの受託事業の運営母体である。その性質はネットワーク型研究を推進することにあるが、このことを通して、東北大拠点以外の国立民族学博物館拠点、北海道大学拠点、神戸大学拠点との組織的な交流を開始することができた。</p>		
<p>外部資金 (名称・金額)</p>	<p>人間文化研究機構グローバル地域研究事業東ユーラシア研究プロジェクト</p>	<p>8250 千円</p>	
<p>ユニットが 運営する共同研究</p>	<p>なし</p>		
<p>ユニット主催の研究 集会・企画 (共同研究 報告書に記載して いないもの)</p>	<p>研究会 2 回</p>	<p>国際会議 (集会): 2 回</p>	
	<p>研究組織外参加者 (都合): 60 人 (延)</p>	<p>研究組織外参加者 (都合): 20 人</p>	
<p>学際性の有無</p>	<p>有</p>	<p>参加専門分野数: 5</p>	<p>分野名称: 文化人類学、歴史学、政治学</p>

文理連携性の有無	無	特記事項：
社会還元性の有無	無	
国際連携	連携機関数：	
国内連携	連携機関数：7	連携機関名：人間文化研究機構、国立民族学博物館、北海道大学スラブ・ユーラシア研究センター、神戸大学大学院国際文化科学研究科、アジア経済研究所、東京都立大学人文学部、鹿児島大学法文学部
学内連携	連携機関数：2	連携機関名：文学研究科、災害科学国際研究所
教育上の効果		
第三者による評価・受賞・報道など		
ユニット運営計画全体のなかでの当該年度成果の位置づけと今後の課題	今年度は特任助教の着任を含めて、研究運営組織の構築を円滑にすることができた。また国際連携の点では、イギリスとフィンランドのポスドク研究者を招聘し、セミナーおよび国際会議での分科会主催ができたことが大きな成果である。来年度は、メンバーの研究会を定期的実施し、研究交流と進捗状況の把握を行いたい。	
最終年度	該当 [無]	

*ファイル名は UnitRpt_年度_代表者ローマ字（例 UnitRpt_2015_oka）とする。

<最終年度報告>

ユニットの最終年度には、数年間にわたる組織運営事業を全体を通して何を達成したのか、また東北アジア研究センターにとってどのような貢献があったのか、600-800字程度でまとめてください。図版不要。Webで公開します。